



**ひなまつり 雛祭り** ひな 雛とは、ちい さいことをあらわしています。  
ひなにんぎょう かみ よ しろ かたしろ よ  
雛人形は、神の依り代となる形代と呼ばれる人形(ひ  
とがた・にんぎょう)の一種です。3月の上巳(三月  
の初めの巳の日)の節句に、身をこの形代で撫でて、  
けが うつ のち かわ うみ なが こども すこ  
穢れを遷した後に、川や海に流し、子供の健やかな  
せいちょう いの ひなまつ もと い  
成長を祈ることが、雛祭りの元になったと言われて  
います。もともとはかみ つち などで作られた簡単な  
にんぎょう ねん わざわ う と のち かわ うみ なが  
人形で、1年の災いを受け止めた後に川や海に流さ  
れました。これを「雛なが にんぎょう なが ひな  
い、その風 習は現在も残っています。この風 習と、  
へいあんじだい つつ きゅうていきそく しじょ ひなあそ むす  
平安時代から続く宮 廷貴族の子女の雛遊びとが結び  
つき、え どじだい はい ぶ し かいきゅう ちょうにん ひろ  
江戸時代に入って武士階 級から町 人へと広ま  
り、ひなにんぎょう かざ い  
雛人形を飾るようになったと言われています。

ひなまつり ひなまつり  
3日の雛祭り<sup>ひなまつり</sup>と5日の啓蟄<sup>けいちつ</sup>から、「流し雛と、土から出てきたばかり

のカエル<sup>ひょうげん</sup>」を表現しています。啓蟄<sup>けいちつ</sup>とは、にじゅうしせっき  
二十四節気の一つで、この

ころ冬ごもり<sup>ふゆ</sup>をしていた虫<sup>むし</sup>が穴<sup>あな</sup>から出てくるとされています。